

A. 外用抗菌剤とプラセボの比較

文献	対象	デザイン・介入	評価項目
(1) 報告者 (2) 西暦年 (3) 文献番号 (4) 実施場所 (国)	(1) 総数 (2) 年齢 (3) エントリー時における重症度 (4) その他ベースラインのデータ	(1) RCT or 非RCT (対照群10例以上、比較群10例以上、計20例以上のもの) (2) クロスオーバー or 同時対照 (parallel) or 記録対照 (3) (研究により) 前向き or 後向き (4) 各群の例数 (5) 実際の方法 (薬剤の名称・量・投与方法等) (6) 比較対照の内容 (プラセボの名称・量・投与方法等) (7) 追跡期間 (導入期間+試験期間)	(1) 主要アウトカム (2) 副次的アウトカム
(1) Koning S et al, BMJ. 324: 203-6、 (2) 2002、 (3) 5、 (4) Netherlands	(1) 160例、 (2) 0～12歳、 (3)、 (4) impetigo 36例、 ecthyma 2例	(1) 二重盲検ランダム化比較試験、(2) パラレル、(3) 前向き、 (4) fusidic acid cream外用群78例、placebo cream外用群82例、(5) fusidic acid cream1日3回外用、(6) placebo cream1日3回外用、(7) 7日間	(1) 臨床改善度、病変の大きさ、 (2) 有害事象
(1) Eells LD et al, Arch Dermatol. 122(11): 1273-6、 (2) 1986、 (3) 17、 (4) USA	(1) 52例、 (2) 7ヶ月～13歳、 (3)、 (4) impetigo 36例、 ecthyma 2例	(1) 二重盲検ランダム化比較試験、(2) パラレル、(3) 前向き、 (4) mupirocin外用群18例、placebo外用群20例、(5) 2% mupirocin in polyethylene glycol 1日3回外用、(6) placebo1日3回外用、(7) 7～9日間	(1) 病変の状態により治癒、中等度改善、悪化、 (2)
(1) Zaynoun ST et al, Br J Dermatol. 90(3): 331-4、 (2) 1974、 (3) 18、 (4) USA	(1) 46例、 (2) 4ヶ月～65歳、 (3)、 (4) 大学病院の外来患者、膿痂疹患者23例	(1) 二重盲検ランダム化比較試験、(2) パラレル、(3) 前向き、 (4) gentamicin外用群21例、placebo外用群23例、(5) 0.1% gentamicin cream 1日2回外用、(6) placebo1日2回外用、 (7) 7日間	(1) 病変の状態により良好、中等度改善、悪化、 (2)

B. 外用抗菌剤と全身抗菌剤の比較

文献	対象	デザイン・介入	評価項目
(1) 報告者 (2) 西暦年 (3) 文献番号 (4) 実施場所 (国)	(1) 総数 (2) 年齢 (3) エントリー時における重症度 (4) その他ベースラインのデータ	(1) RCT or 非RCT (対照群10例以上、比較群10例以上、計20例以上のもの) (2) クロスオーバー or 同時対照 (parallel) or 記録対照 (3) (研究により) 前向き or 後向き (4) 各群の例数 (5) 実際の方法 (薬剤の名称・量・投与方法等) (6) 比較対照の内容 (プラセボの名称・量・投与方法等) (7) 追跡期間 (導入期間+試験期間)	(1) 主要アウトカム (2) 副次的アウトカム
(1) Dagan R et al, Chemother. 36(2): 287-90、 (2) 1992、 (3) 4、 (4) Israel	(1) 102例、 (2) ～16歳、 (3)、 (4) 小児科の患者	(1) 二重盲検ランダム化比較試験、(2) パラレル、(3) 前向き、 (4) Erythromycin内服群51例、mupirocin外用群51例、 (5) Erythromycin1日3回内服、2% mupirocin1日3回外用、 (6) プラセボ1日3回外用、プラセボ1日3回内服、(7) 7日間	(1) 病変の状態 (治癒、改善、不変、悪化)、新病変の出現、リンパ節腫脹 (消退、改善、不変、悪化)、発熱、有害事象、(2)
(1) Bass JW et al, Pediatr Infect Dis J. 16(7): 708-10、 (2) 1997、 (3) 19、 (4) USA	(1) 32例、 (2) 2～6歳、 (3)、 (4) 小児科患者	(1) 二重盲検ランダム化比較試験、(2) パラレル、(3) 前向き、 (4) cephalixin内服群10例、mupirocin外用群7例、bacitracin外用群9例、(5) cephalixin1日3回内服、2% mupirocin1日3回外用、500u/g bacitracin1日3回外用、(6) placebo1日3回塗布、placebo1日3回内服、placebo1日3回内服、(7) 10日間	(1) 病変の性質と大きさ (治癒、改善、悪化)、(2)
(1) Britton JW et al, J Pediatr. 117(5): 827-9、 (2) 1990、 (3) 20、 (4) USA	(1) 54例、 (2) 2ヶ月～11歳、 (3)、 (4) 小児科の外来患者	(1) 二重盲検ランダム化比較試験、(2) パラレル、(3) 前向き、 (4) mupirocin外用群24例、erythromycin内服群30例、(5) 2% mupirocin (supplied in its polyethylene glycol base) 1日3回外用、erythromycin ethyl succinate (40mg/kg/day) 1日4回内服、(6) プラセボ1日4回内服、プラセボ1日3回外用、(7) 10日間	(1) 新病変の出現、病変の滲出液・炎症の持続 (完治、改善)、(2)
(1) Koranyi KI et al, Ohio State Med J. 72(6): 368-70、 (2) 1976、 (3) 21、 (4) USA	(1) 30例、 (2) 2ヶ月～15歳、 (3) 軽症～重症、 (4) 小児科の外来患者	(1) 二重盲検ランダム化比較試験、(2) パラレル、(3) 前向き、 (4) Bacitracin ointment外用群15例、erythromycin内服群15例、(5) Bacitracin ointment1日4回外用、erythromycin1日4回内服、(6) プラセボ1日4回内服、プラセボ1日4回外用、(7) 6日間	(1) 病変の状態 (治癒、改善、悪化)、(2)

脱落例数	結果	有害事象	エビデンスのレベル	備考
可及的に詳細を記載 わからない場合は“不明”と記載	報告者の結論をそのまま記載	可及的に詳細を記載（結論に影響するもの、報告者のサマリーを参照） わからない場合は“不明”と記載	評価法の見方を参照	(1)ITTの有無 (2)ランダム化の評価 (3)盲検化の評価 (4)併用療法
4例	fusidic acid cream外用群は placebo外用群よりも有意に改善した	重篤なものはなし	1	(1)ITTなし、(2)ランダム化の方法の記載あり、(3)盲検化の方法の記載あり、 (4)povidone iodine shampoo
14例	mupirocin外用群とplacebo外用群の治療効果に差はなかった	記載なし	2	(1)ITTなし、(2)ランダム化の方法の記載あり、(3)盲検化の方法の記載なし、(4)併用療法不明
なし	gentamicin外用群とplacebo外用群の治療効果に差はなかった	なし	1	(1)ITTあり、(2)ランダム化の方法の記載あり、(3)盲検化の方法の記載なし、(4)併用療法不明

脱落例数	結果	有害事象	エビデンスのレベル	備考
可及的に詳細を記載 わからない場合は“不明”と記載	報告者の結論をそのまま記載	可及的に詳細を記載（結論に影響するもの、報告者のサマリーを参照） わからない場合は“不明”と記載	評価法の見方を参照	(1)ITTの有無 (2)ランダム化の評価 (3)盲検化の評価 (4)併用療法
13例（erythromycin群 8例、mupirocin群5例）	mupirocin外用はerythromycin内服よりも有意に効果的だった	胃消化管障害（erythromycin群11例、mupirocin群4例）	1	(1)ITTなし、(2)ランダム化の方法の記載あり、(3)盲検化の記載なし、(4)併用療法なし
6例	cephalexin内服群とmupirocin外用群はbacitracin外用群よりも有意に改善した	記載なし	1	(1)ITTなし、(2)ランダム化の方法の記載あり、(3)盲検化の記載なし、(4)併用療法なし
6例 （mupirocin外用群2例、erythromycin内服群4例）	mupirocin外用群とerythromycin内服群の治療効果に差はなかった	軽度の胃消化管障害など11例	1	(1)ITTなし、(2)ランダム化の方法の記載あり、(3)盲検化の方法の記載あり、(4)併用療法不明
なし	Bacitracin ointment外用群とerythromycin内服群の治療効果に差はなかった	軽度の消化管障害2例	1	(1)ITTあり、(2)ランダム化の方法の記載なし、(3)盲検化の方法の記載なし、(4)併用療法不明

C. 外用抗菌剤同士の比較

文献	対象	デザイン・介入	評価項目
(1) 報告者 (2) 西暦年 (3) 文献番号 (4) 実施場所 (国)	(1) 総数 (2) 年齢 (3) エントリー時における重症度 (4) その他ベースラインのデータ	(1) RCT or 非RCT (対照群10例以上、比較群10例以上、計20例以上のもの) (2) クロスオーバー or 同時対照 (parallel) or 記録対照 (3) (研究により) 前向き or 後向き (4) 各群の例数 (5) 実際の方法 (薬剤の名称・量・投与方法等) (6) 比較対照の内容 (プラセボの名称・量・投与方法等) (7) 追跡期間 (導入期間+試験期間)	(1) 主要アウトカム (2) 副次的アウトカム
(1) Gilbert M, J Am Acad Dermatol. 20(6): 1083-7、 (2) 1989、 (3) 23、 (4) Canada	(1) 70例、 (2) 記載なし、 (3)、 (4) 皮膚科患者	(1) 二重盲検ランダム化比較試験、(2) パラレル、(3) 前向き、 (4) mupirocin外用群35例、fusidic acid外用群35例、(5) 2% mupirocin 1日3回外用、2% fusidic acid 1日3回外用、(6)、 (7) 7日間	(1) 感染徴候、 症状の軽減、治療抵抗性、 (2)
(1) Morley PA, Munot LD, Curr Med Res Opin. 11(2): 142-8、 (2) 1988、 (3) 24、 (4) UK	(1) 354例、 (2) 1~92歳、 (3)、 (4)	(1) 二重盲検ランダム化比較試験、(2) パラレル、(3) 前向き、 (4) sodium fusidate外用群191例、mupirocin外用群163例、 (5) 2% sodium fusidate 1日3回外用、2% mupirocin 1日3回外用 (またはドレッシング材で覆って1日1回)、(6)、(7) 7日間	(1) 局所感染徴候・症状、 (2)
(1) Jaffe GV, Grimshaw JJ, Pharmatherapeutic a. 4(10): 628-36、 (2) 1986、 (3) 12、 (4) UK	(1) 119例、 (2) 1~83歳、 (3)、 (4) infected eczema 76例、impetigo 43例	(1) 二重盲検ランダム化比較試験、(2) パラレル、(3) 前向き、 (4) Group 1: hydrocortison+potassium hydroxyquinoline sulphate群65例 (infected eczema 41例、impetigo 24例)、 Group 2: hydrocortison+miconazole nitrate群54例 (infected eczema 35例、impetigo 19例)、(5) Group 1: 1% hydrocortison +0.5% potassium hydroxyquinoline	(1) 紅斑、ひりつき、膿疱、鱗屑、その他、 (2)
(1) Nolting S, Strauss WB, Int J Dermatol. 27: 716-9、 (2) 1988、 (3) 13、 (4) Germany	(1) 80例、 (2) 1~74歳、 (3)、 (4) impetigo 66例、ecthyma 14例	(1) 二重盲検ランダム化比較試験、(2) パラレル、(3) 前向き、 (4) sulconazole nitrate外用群191例、miconazole nitrate外用群163例、(5) 1% sulconazole nitrate cream 1日2回外用、2% miconazole nitrate cream 1日2回外用、(6)、(7) 14日間	(1) 痂皮、潰瘍、小水疱、膿疱、水疱、紅斑、滲出液、 (2)
(1) Sutton JB, Curr Ther Res. 51: 673-8、 (2) 1992、 (3) 25、 (4) UK	(1) 201例、 (2) 1ヶ月~77歳、 (3)、 (4) UKの26施設の顔面膿痂疹患者	(1) 二重盲検ランダム化比較試験、(2) パラレル、(3) 前向き、 (4) fusidic acid外用群93例、mupirocin外用群84例、(5) fusidic acid cream 1日3回外用、mupirocin ointment 1日3回外用、 (6)、(7) 7日間	(1) 治癒、改善、不変・悪化、 (2)
(1) White DG, Infect. 18(3): 221-9、 (2) 1989、 (3) 26、 (4) UK	(1) 413例、 (2) 11ヶ月~84歳、 (3)、 (4) impetigo 165例	(1) 一重盲検ランダム化比較試験のサブグループ解析、(2) パラレル、(3) 前向き、(4) mupirocin外用群275例、fusidic acid外用群138例、(5) 2% mupirocin ointment 1日2回外用、2% fusidic acid ointment 1日3回外用、(6)、(7) 7日間	(1) 治癒、改善、不変・悪化、 (2)

脱落例数	結果	有害事象	エビデンスレベル	備考
可及的に詳細を記載 わからない場合は“不明”と記載	報告者の結論をそのまま記載	可及的に詳細を記載（結論に影響するもの、報告者のサマリーを参照） わからない場合は“不明”と記載	評価法の見方を参照	(1)ITTの有無 (2)ランダム化の評価 (3)盲検化の評価 (4)併用療法
1例	mupirocin外用群とfusidic acid外用群の治療効果に差はなかった	なし	1	(1)ITTなし、(2)ランダム化の方法の記載あり、(3)、(4)併用療法不明
4例	sodium fusidate外用群とmupirocin外用群の治療効果に差はなかった	アレルギー反応1例、癢痒1例、刺痛2例、灼熱感1例、不快感1例、軟膏の性質(粘着性など)8例	1	(1)ITTあり、(2)ランダム化の方法の記載あり、(3)盲検化の方法の記載あり、(4)併用療法不明
12例 (Group 1:5例、Group 2:7例)	impetigo群ではGroup 1はGroup 2よりも有意に効果的だった	なし	1	(1)ITTあり、(2)ランダム化の方法の記載あり、(3)盲検化の方法の記載あり、(4)併用療法不明
なし	sulconazole外用群はmiconazole外用群より有意に効果的だった	灼熱感1例	1	(1)ITTあり、(2)ランダム化の方法の記載あり、(3)、(4)併用療法なし
24例	fusidic acid外用群とmupirocin外用群の治療効果に差はなかった	紅斑1例、ひりつき1例、癢痒1例、刺痛1例、灼熱感1例、局所炎症1例	1	(1)ITTなし、(2)ランダム化の方法の記載あり、(3)盲検化の方法の記載あり、(4)併用療法不明
18例	mupirocin外用群とfusidic acid外用群の治療効果に差はなかった	重篤なものはなし	3	(1)ITTあり、(2)ランダム化の方法の記載あり、(3)盲検化の方法の記載あり、(4)併用療法不明

D. 経口抗菌剤同士の比較

文 献	対 象	デザイン・介入	評価項目
(1)報告者 (2)西暦年 (3)文献番号 (4)実施場所(国)	(1)総数 (2)年齢 (3)エントリー時における重症度 (4)其他ベースラインのデータ	(1)RCT or 非RCT(対照群10例以上、比較群10例以上、計20例以上のもの) (2)クロスオーバー or 同時対照(parallel) or 記録対照 (3) (研究により)前向き or 後向き (4)各群の例数 (5)実際の方法(薬剤の名称・量・投与方法等) (6)比較対照の内容(プラセボの名称・量・投与方法等) (7)追跡期間(導入期間+試験期間)	(1)主要アウトカム (2)副次的アウトカム
(1) Jaffe AC et al, Curr Ther Res. 38: 160-8, (2) 1985、 (3) 27、 (4) USA	(1) 43例、 (2) 6ヶ月～12歳、 (3)、 (4)	(1) 二重盲検ランダム化比較試験、(2) パラレル、(3) 前向き、 (4) augmentin内服群21例、cefaclor内服群22例、 (5) augmentin (125mg amoxicillin and 30mg clavulanic acid per 5ml) 20mg/kg/day 1日3回内服、(6) cefaclor 20mg/kg/day 1日3回内服、(7) 10日間	(1) 治癒、不変・悪化、 (2)
(1) Demidovich CW et al, Am J Dis Child. 144(12): 1313-5、 (2) 1990、 (3) 28、 (4) USA	(1) 75例、 (2) 5ヶ月～15歳、 (3)、 (4) 小児科患者	(1) 二重盲検ランダム化比較試験、(2) パラレル、(3) 前向き、 (4) penicillin V内服群25例、cephalexin内服群23例、 erythromycin内服群25例、(5) penicillin V40-50mg/kg内服、 cephalexin 40-50mg/kg内服、erythromycin 30-40mg/kg内服、 (6)、(7) 10日間	(1) 治癒、不変・悪化、 (2)

脱落例数	結果	有害事象	エビデンスレベル	備考
可及的に詳細を記載 わからない場合は“不明”と記載	報告者の結論をそのまま記載	可及的に詳細を記載（結論に影響するもの、報告者のサマリーを参照） わからない場合は“不明”と記載	評価法の見方を参照	(1) ITTの有無 (2) ランダム化の評価 (3) 盲検化の評価 (4) 併用療法
2例	augmentin内服群とcefaclor内服群の治療効果に差はなかった	下痢7例	1	(1) ITTなし、(2) ランダム化の方法の記載あり、(3) 盲検化の方法の記載あり、(4) 併用療法不明
2例	cephalexin内服群とerythromycin内服はpenicillin V内服群よりも有意に改善した	なし	1	(1) ITTなし、(2) ランダム化の方法の記載なし、(3) 盲検化の方法の記載なし、(4) 併用療法不明